

たまりば 事業報告



おいしい 餃子が出来ました♪

H29. 5月スタッフ研修

事業内容

「働く障害者のための交流拠点事業」（岡山市受託事業）

【目的】

- ・ 岡山市内で働く障害者がいきいきと働き続けるために、仲間との交流を図ったり、気軽に仕事や生活の相談ができる、ゆったり過ごせる居場所として交流スペース
- ・ そこでの職場や生活上の相談支援の実施

→職場定着を推進する

【対象者】

- ・ 岡山市在住又は岡山市内で働いている障害者
- ・ 岡山市在住の一般就労に向けて求職活動を定期的に行っている障害者

【場所】

- ・ ぱる・おかやま（岡山市北区表町3丁目7-27）

【実施日時】

- ・ 毎週木曜 午後5時～午後7時半
- ・ 毎週土・日曜 午後2時～午後5時

働く障害者のための交流拠点（愛称：たまりば）事業説明資料

1 岡山市の障害者就労支援事業

① 障害者一般就労支援事業【平成27年度から】

- ア) 障害者を雇用する企業、職場実習の受入企業の開拓
 - イ) 福祉施設から一般就労への移行支援
 - ウ) 障害者就職面接会開催（平成27年 1回、平成28年 2回 <平成29.1.23第2回開催>）
 - エ) 就労支援セミナー（平成28年2回）、企業団体との懇談会（平成28年2回）



② 障害者一般就労定着支援事業【平成27年度から】

ア) 働く障害者のための交流拠点事業（愛称：たまりば）

企業等で働く障害者等が交流や相談ができる拠点を整備し、職場への定着を推進

職場定着支援を受ける予定の無い障害者及び雇用主への相談・支援の提供【平成28年度から】

- イ) 障害者職場定着支援活動費補助金

障害者就労支援施設が行う職場定着支援活動の費用の一部を助成。

③ 障害者工賃向上支援事業

ア) 障害者就労支援施設商品ブラッシュアップ事業【平成27年度から】

民間事業者のノウハウを活用し、障害者就労支援施設の製作する商品の改良等を支援

- イ) 障害者工賃レベルアップ支援事業【予定】

経営相談支援機関等を活用し、就労施設の事業運営の改善などによる収益向上の促進

2 障害者職場定着支援の重要性（たまりばの意義）

① 県内の民間企業の障害者実雇用率 平成28.6.1 ⇒ 2.45% (平成27 2.29%)

② 岡山市主催就職面接会からの就職者 平成27 14人 平成28 26人 + α (1/23面接会)

しかしながら…どの就労支援機関にもつながらず就職する障害者が少なくないことが分かってきました。

※就職面接会参加者アンケート93通のうち、34人が就職後に定着支援を受ける予定なし、11人が支援機関を知らないと回答

※今まで支援機関から支援を受けたことがないとの回答30人。支援機関を知らないとの回答4人

⇒今後ますます職場定着支援が重要になってきます。（特に、支援機関に繋がらず就職された方々）

⇒たまりば利用者の離職者は2年間で3人ほど。「たまりば」の職場定着への効果！さらなる活用を！

働く障害者のための交流拠点事業(愛称:たまりば) とは

【目的】

企業等に就職している障害者等が仕事帰りや休日に交流する場を設け、合わせて職場や生活上の相談支援を行うこと、また、利用登録した障害者及びその雇用企業等に対して職場定着支援を実施することなどにより、障害者の職場定着や一般就労への移行を推進し、障害者の社会参加と自立を支援すること。

【開所年月日】 平成27年6月4日(木) プレオープン 平成27年5月24日(日)

【事業イメージ図】



- ◇働く仲間との交流、仕事や生活上の悩みの相談など
- ◇居場所・フリースペースなど
- ◇職場や家庭訪問等による職場定着支援の提供(H28から開始)
<職場定着支援対象>
 - ・職場定着支援を受けるために利用登録した障害者
(たまりばの利用登録とは別に利用登録が必要)
 - ・利用登録した障害者の雇用主など
(支援機関につながっていない障害者の雇用主が主な対象)



自 宅

たまりば

職 場

定着支援
(新規)

定着支援
(新規)

定着支援依頼



一般就労(民間企業等への就職)



就労支援施設を利用せず就職した障害者及び雇用した企業は、就労支援施設につながっていないため職場定着支援を受けられない場合が多く、離職につながりやすい。

内容

(1) 交流拠点運営管理業務

①利用者の登録やデータベース化

②一般就労関係相談支援事業

- ・来所者の相談を受け、適切な支援を行う。
- ・必要に応じ、専門機関との連携支援を行う

③利用者交流事業

- ・サロン活動での交流を促進し、就労継続意欲の維持、向上を図る。
- ・必要に応じて利用者の交流会などをおこなう

④利用者の職業能力や生活能力の向上支援

- ・研修などの実施（グループワーク、座談会など）

(つづき)

⑤関係機関、施設との連携

⇒連絡会（1階／2カ月）、就労支援部会での報告、よこつな会

⑥地域との交流事業

- ・地域行事への参加などで、障害者への理解の促進

⑦広報・利用促進事業

- ・HPなどによる交流拠点利用情報などの積極的な発信
- ・パンフレットなどによる広報

⇒各関係機関、協力機関への周知

⇒各研修や連絡会、面接会などの紹介

⑧就労・定着にかかる研修会の開催

⑨優先調達の推進

(2) 職場定着支援提供業務（平成28年度より）

①利用者の登録

- ・交流拠点とは別に作成する
- ・HWと連携し、支援に繋がっていない人の利用登録に努めること

⇒就業生活支援センターとの要連携

②利用者への職場定着支援の提供

- ・本人からの依頼や相談により、訪問などの職場定着支援
- ・本人の交流拠点での状況により、必要に応じての訪問などによる定着支援
- ・支援機関利用者に対しては、支援要請がある場合につき支援の実施
- ・他の補助金、助成金を受けての定着支援とは区別すること（例：JC支援）

③雇用する企業への定着支援の提供

- ・雇用主からの依頼や相談による、職場訪問などによる定着支援
- ・他機関での定着支援実施者の場合は、必要に応じての実施
- ・補助金などの区別

④他機関、就労支援機関との連携

- ・HW、就業生活支援センターなど

たまりば利用登録者状況

(H29年3月末現在)

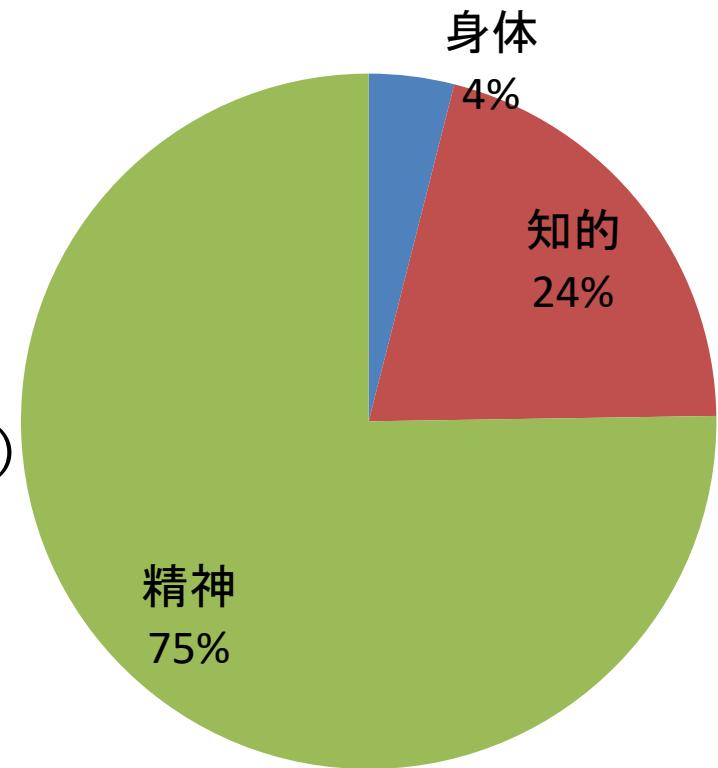
登録者：92名

内訳 精神：76名

知的：12名

身体：4名

(手帳の可否ではなく、障害種別での人数)



男女数：男性 66名 女性 26名



登録者状況

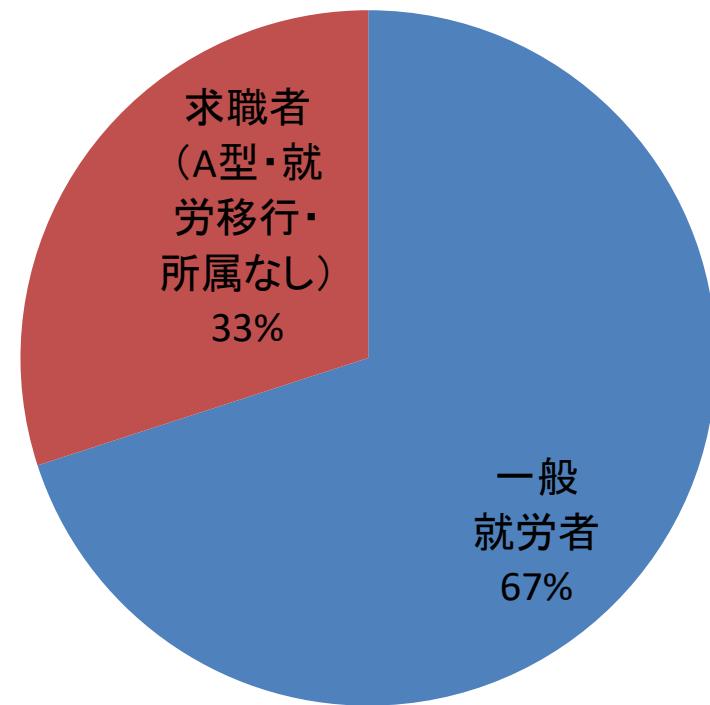
(H29年3月末現在)

登録者92名の
現在の状況の内訳

一般就労者：63名

(職場定着状況：63名中2名離職、
ただしその後再就職に至る)

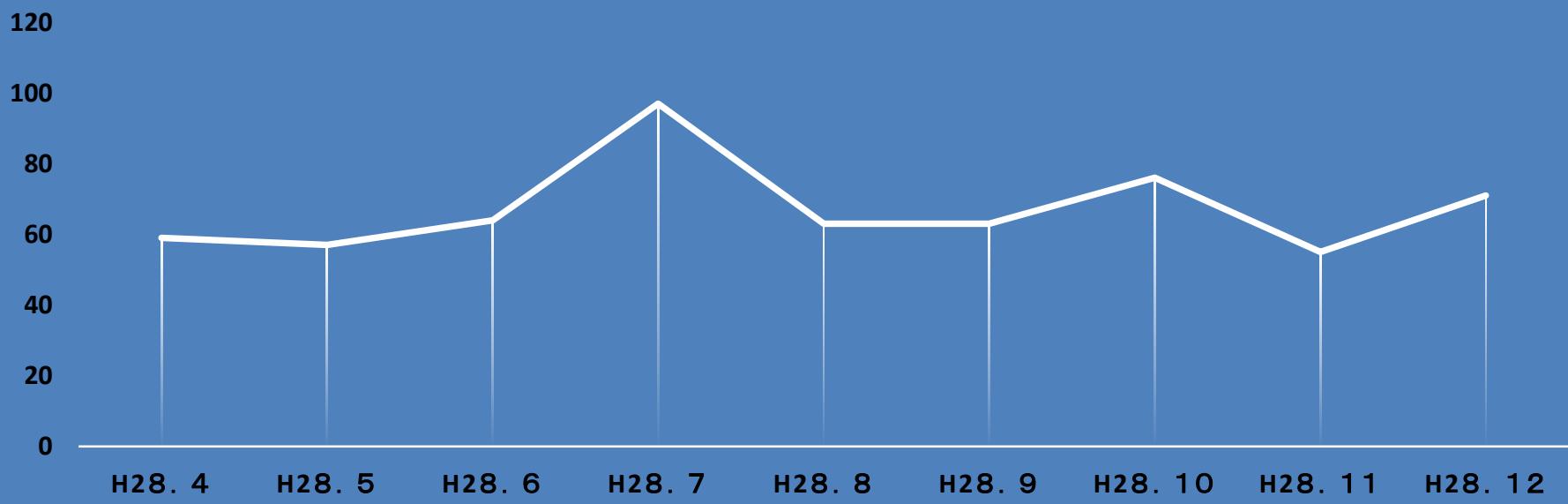
求職者（A型・移行・所属無し）
：29名



たまりば 月ごとの利用件数

平成28年度 利用件数

一件数



月平均 約50名
一日 平均6.2名

どんなふうに活用していますか？ たまり場の利用目的

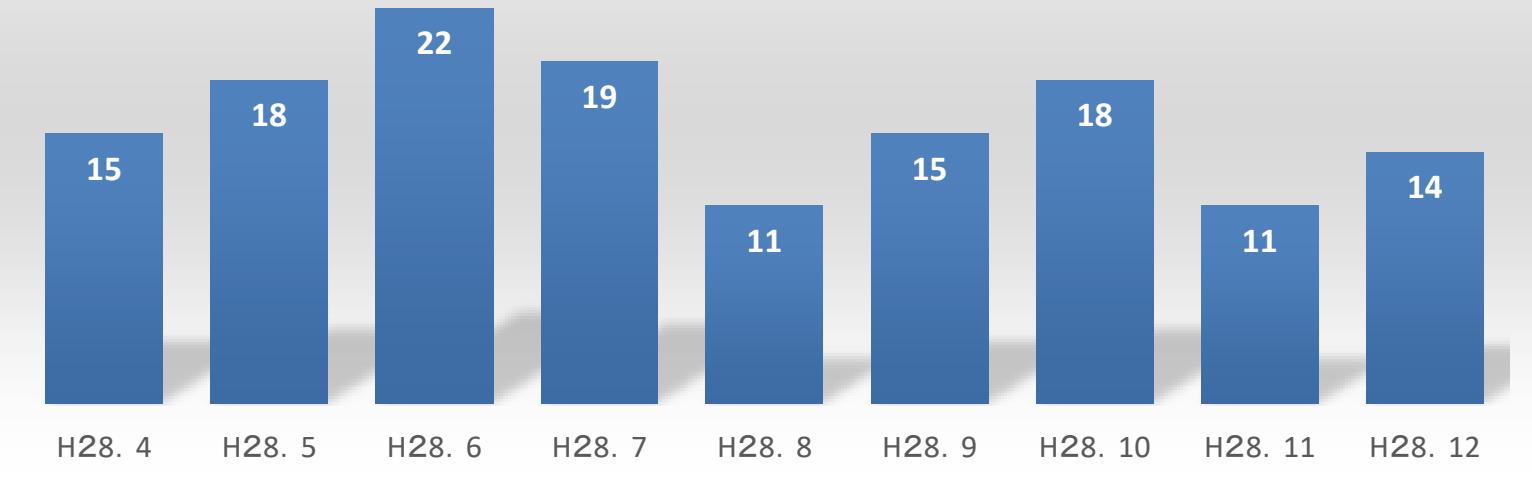
- ・ 気分転換の場所。
- ・ 人と接していたい時に利用する。
- ・ 仕事で張りつめた空気の癒し場
- ・ 孤独が癒される。
- ・ 日曜日（休みの日に）行くところがある。
- ・ 相談できる場所
- ・ 休憩
- ・ いろんな話が聴けるところ
- ・ 他人の体験談を聴き、自分のパワーに変えることができる。
- ・ 職場に限らず人生全般の相談が出来て発散できる。
- ・ 精神的ストレスを癒してくれる。
- ・ 人生のいろんなつながりができるところ。
- ・ 人とのコミュニケーションをとるために活用する。

活用の目的も
さまざま

たまりば 相談件数

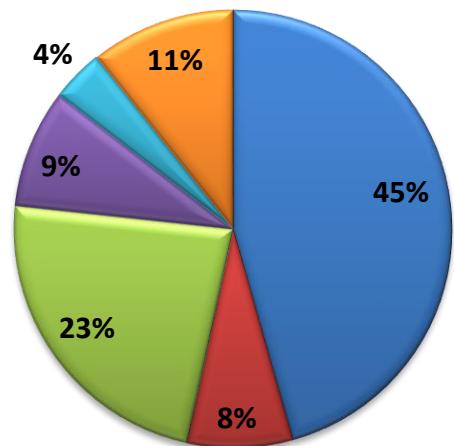
平成28年度 相談件数

■ 件数



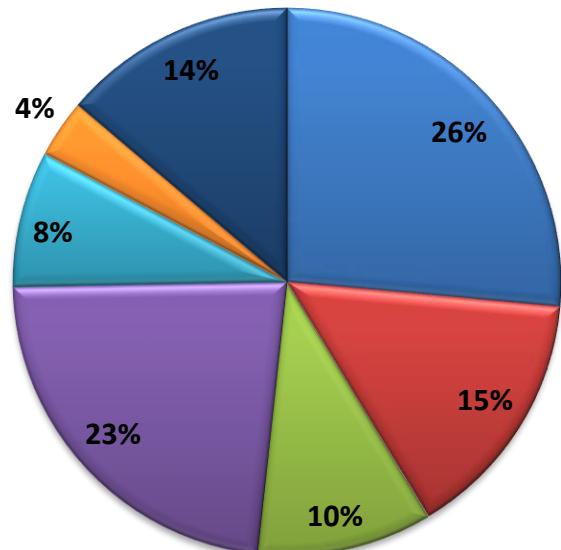
- ・なんでもない雑談から相談につながる場合も多い。
→居場所の安心感や居心地の良さは大切
- ・相談も多岐にわたる

平成28年度 相談件数内訳(就労関係)



- ①職場における問題、悩みに関すること
- ②職業能力向上に関すること
- ③転職、再就職などに関すること
- ④一般就労への移行に関すること
- ⑤就労支援機関の利用、就労系福祉サービスに関すること
- ⑥その他の相談、支援に関すること

平成28年度 相談件数内訳(生活関係)

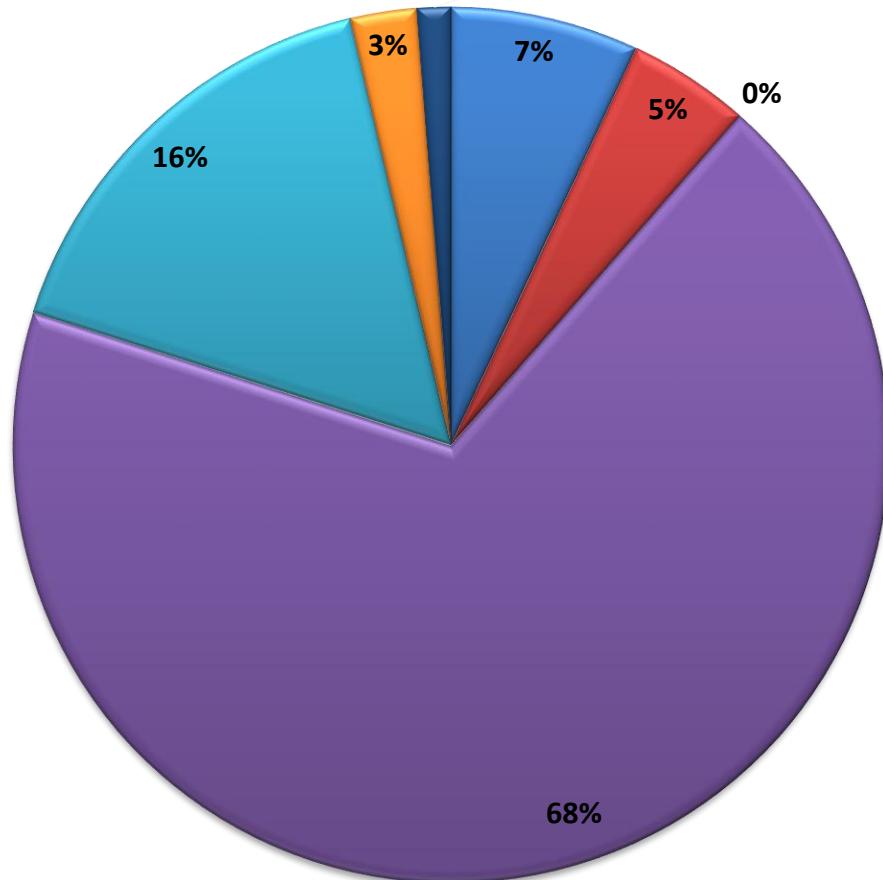


- ⑥就業生活、日常生活に関すること
- ⑦余暇活動、居場所づくり、社会活動に関すること
- ⑧医療、健康、精神衛生などに関すること
- ⑨家族関係、人間関係に関すること
- ⑩福祉サービス(就労関係以外)などの利用に関すること
- ⑪障害や症状に関すること
- ⑫その他の相談、支援に関すること

定着支援 利用状況

平成28年度
定着支援相談内訳

現在 7名の方の定着支援を行っています。



- ①職場訪問（本人対象）
- ②職場訪問（雇用主対象）
- ③自宅訪問
- ④電話等による支援（本人対象）
- ⑤電話等による支援（雇用主対象）
- ⑥支援機関との調整等
- ⑦その他

たまりばオープニング — 記念イベント

平成27年度の取り組み

4月：たまりば準備会

5月：たまりばプレオープン たこ焼き交流会

6月：オープニング記念イベント 座談会

9月：就労者交流会 たこ焼き第二弾！体験談の発表

11月：たまりばシアター ドラえもんを見よう！

12月：たまりば忘年会 鉄板焼きとグループワーク

3月：ボーリング大会

アロマクラフト教室 好きな香りでスプレーを作ろう！



平成28年度の取り組み

5月：幻想庭園を見に行こう！

6月：カラオケへ行こう！

7月：ソーメン流しと勉強会「相談支援について知ろう」

8月：うらじや祭りでかき氷を販売&怪談ナイト！

9月：赤磐アートラリーへ散策&ドライブ

10月：みんなで飲みに行こう！

11月：スポーツしよう！

12月：忘年会みんなでお鍋作をろう！

メンバーからの「したい！」「行ってみたい」から、月に1回のペースでイベントを企画実施しました。

仕事から離れたくつろぐ時間も大切にしたいものですね。

交流拠点事業

«良かったこと»

- ・ほぼ毎月のイベント開催を通じて、登録メンバーの交流を促進できた。（利用者数に反映）
- ・日曜開所、土日開所にすることで、ぱるの開所日と合わせ、スタッフの負担感が少し軽減した。
- ・1階、2階ともにスペースの活用用法(机の配置など)を工夫することで、交流や会話を促すことができた。
- ・支援スタッフも対応に慣れてきたこともあり、相談の聞き取りやメンバーとの関係性をしっかりと持つことができた。
- ・外部の支援スタッフが増え、より多様なかかわりが持てた。
- ・メンバーも雰囲気に慣れてきた人は、交流拠点での過ごし方や活動の希望を積極的に出し、イベントなどにつながった。

«課題点»

- ・来所人数や見学者が多い時は、スタッフ二人体制では十分に対応しきれず交流拠点でのメンバーの状況把握が難しかった。
- ・電話での問い合わせに対応できていない時があり、苦情につながったケースもあった。

たまりば連絡会

(当番者間で利用者状況などの情報共有及び運営の見直し)

- ・ 4月26日（火）
- ・ 6月28日（火）
- ・ 9月27日（火）
- ・ 12月13日(火)
- ・ 3月17日（火）

«交流拠点に関わるスタッフ»

あすなろスタッフ：10名

外部支援スタッフ：11名

«よかったこと»

- ・ たまりば担当スタッフで月1回のミーティングを行い、定期的に状況を確認できた。検討事項を他のスタッフに伝えやすく、連絡会やイベント告知もしやすかった。

«課題点»

- ・ 連絡会が平日の夜で外部の方の出席が難しく少ない日もあった。
- ・ あすなろスタッフの参加の仕方も工夫が必要→29年度より変更した。

定着支援事業

«良かったこと»

- ・本人と職場への定着支援介入以降、離職者が出ていない。
- ・離職後も早くにその情報をキャッチし、再就職へつながっている。
- ・本人や職場での一定の課題に対して、支援を行い、少しずつ変化が見られている。

«業務上の課題»

- ・ケースによって、集中支援の入り方に差があった。（現状）
- ・職場への介入のタイミングや職場との連絡調整の工夫
- ・職場への介入が難しい時、本人や職場の困り感に関して環境調整や指示の明確化など現場での対応に関する提案がしづらかった。
- ・関係機関や協力機関との情報共有について
(定着支援の必要性や支援の実現可能性を予測する難しさを感じた)

今年度 事業計画 案

○交流拠点

- ・月8回の開所を継続する。
- ・出張たまりばの開催。
- ・イベントの開催と告知の工夫をする
- ・土日スタッフの増員(2名→3名へ)
→たまりばメルマガ配信(※別紙)

○支援スタッフ間での情報共有の工夫

- ・たまりば連絡ノート
- ・登録メンバーネーム簿の改善
- ・たまりば電話・メールの記録表活用

○研修

- ・たま研の開催(30年2月予定)

○定着支援事業

働く

●働いていて、よかったと思うのはどんな時ですか？

- ・ありがとうと言われたとき
- ・仕事をしていることで、自分の病気と向き合えたこと
- ・同じ職場の人とうまくいったり、協力できたとき
- ・新しいつながりができたとき
- ・みんなで(困っている人・同僚とか...)笑えた時
- ・お金がもらえる、お酒がうまい
- ・以前はぼやけていた目的が働くことで見えてきた
- ・仕事が社会とつながっている、生きていると思えたとき
- ・いろいろな人間関係の中に身を置けること
- ・学べていること、人と関わること(さみしくない)

働くこと・働き続けるために

●働き続けていくために、必要だと感じること・頑張っていることはなんですか？

- ・うまい人にコツを教わったり、自分なりに工夫して仕事を早く覚えること
- ・リラックスできる時間をたくさんとる
- ・悪い時の状況を理解してもらったうえで就職する
- ・買いたいもの目標にするなどモチベーションになることを持つ
- ・汗をかいてリフレッシュする
- ・愚痴を吐く
- ・職場にピアサポートが必要だと思う
- ・尊敬できる人の存在
- ・ほめ日記をつけて、次の日に持ち越さないこと
- ・ぼちぼちいくこと
- ・自分を認めてあげること
- ・自分にしかできないことを見つけること
- ・相手を変えるのではなく、自分の考え方や受け止め方を変えること